

医療支援第1陣レポート（あすなろ生協診療所 岡野師長）

◆ 主な支援内容

19～20日、9時から21時まで緑ブースにて看護にあたる（途中2時間の休憩あり）

トリアージ：トリアージポストより各ブースに、トランシーバーで連絡有り

緑……独歩患者・問診・一部検査・診察介助・注射など。 黄……やや重症・採血・点滴・処置など

赤……救急患者。 黒……死亡

※トリアージについては、多少の訓練はしていたが、本格始動したのは初めてとのこと

◆ ライフライン

- ・ 電気：OK。 ガス：支援者はカセットコンロ使用者も何組あった。 水道：OK。 ガソリン：国より送られ職員は申請して20㍲までOKとなるが、翌日ガソリンスタンドでかなりの混があり、10㍲に制限されたと。通勤職員は相乗りをしたり、病院に泊まったりされていた。

◆ 滞在中の設備

- ・ 寝具—クリニック（旧館）6階のリハビリ室の床に持参したアルミパットを敷き、寝袋の上に横になった。毛布は数があり暖房も夜中までありひどい寒さはなかった。
- ・ 食事—昼食・夕食は職員による炊き出しがあり、むすび1個とおかずが少し。朝食は持参のパン・バナナなど。館内の自販機はほとんど売り切れ状態だった。余った物は炊き出しへカンパした。カップ麺はあった方がよい。
- ・ 保清—20日よりOKとなったシャワーは職員さん優先のようで、自分達は清拭をした。着替えスペースはなくトイレを使ったり工夫していた。

◆ その他気づき

<17日>22時30分ごろ東京到着。駅内・街中も節電され暗い。エレベーターも止まっているため、階段をキャリーバッグを下げて歩く。ホテルを探すのも暗いため時間を要した。

<18日>全日本民医連で朝礼。打ち合わせ・待ち時間あり11時出発。サービスエリアのレストラン、売店も閉店が目立った。

<19日>朝方数回余震がある。8時30分よりミーティング有り。午前発熱外来勤務、各避難所でインフルエンザが流行っている。診察終了したら、メッセージ（事務）が薬局に処方箋を運び薬を患者まで運んでくれる。問診時に震災時のことを聞くと話してくださる。広島から支援にきたと言うと泣いてお礼を医ってくださる。発熱の小さい子供さんを連れて30分くらい歩いて受診された若いお母さんは、ご主人が自衛隊勤務で家に帰ってこない不安そうな様子。老夫婦は自分達はどうにか逃げて無事だったが、近所の人は身内を亡くしているのですなおに喜べないなど。待ち時間の間に少しでも悲しみ・辛さを私に話して心が静かになればいいなと願わずにおれない心境だった。外来診察は各地からの支援医師でされていた。通常は電子カルテだが、この間は紙カルテが中心とのこと。新設で丁寧な診察に感動する。若い医師も多い。

<20日>朝方も余震有り。震災10日目。昨日トリアージ200名（横ばい）救急車27件。

<21日>朝方余震が頻回にあった。お産が4件避難所でC P Aあり救急搬送した。

外来のNsも2交代制で疲労の色が濃いが冷静でやさしくてきばきと働かれ、支援者にも気を使ってくくださる。頭の下がる思いだ。職員さん自身も被災されて通常の生活が出来ないのに、そのような様子は見せずに働いておられる。看護師支援もできれば長期に計画できたらいいな—と思いながら帰途についた。